

ヤングケアラー実態調査の実施について

1 目的

年齢や成長の度合いに見合わない責任や負担を負うことで育ちや教育等への影響が危惧されるヤングケアラーへの支援を進めていくにあたり区内の実態を把握する必要があるため。また、本人や家族に気づきを促し、相談・支援につなげていくため調査と併せて啓発チラシを配付する。

2 調査内容

(1) 調査対象

区立の小学4年生から中学3年生、及び区内の高校生世代
約4万人

(2) 調査方法

Web上での調査(区立小・中学生については学校配備の児童・生徒用タブレット端末を使用)

(3) 調査項目(予定)

基本情報(学年、性別、家族構成等)、日常生活、家族状況、世話の有無・頻度、健康状態ほか

3 調査時期

令和5年11月(予定)

4 参考

(1) 国は令和2・3年度にサンプルにより抽出した小学生～大学生に対し実態調査を実施

(2) 当該調査結果によると家族の世話をしていると答えた小学6年生は6.5%、中学2年生は5.7%、全日制の高校2年生は4.1%、大学3年生は6.2%